

令和6年11月28日
農推第1292-8号

病害虫発生・防除情報メールサービス

目次

大阪府環境農林水産部農政室

- ・特に注意！ 野菜類全般：ハスモンヨトウ-----p1
ねぎ：ネギアザミウマ(えそ条斑病)-----p2
- ・果樹【みかん、もも】-----p3
- ・野菜【野菜類全般、きゅうり、あぶらな科野菜】-----p4～6

特に注意！（12月）①

野菜類全般：ハスモンヨトウ



幼虫



集団で食害する幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜、なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。
- ◆ 卵からかえった幼虫は、集団で葉肉を食害するため、葉の表面がすけてカスリ状になる。成長すると分散して単独で加害し穴をあける。
- ◆ 幼虫は、頭部の後方に2つの黒い斑紋があるので、他のヨトウムシ類と区別できる。
- ◆ 体色は、若齢幼虫では淡い灰緑色で、老齢幼虫(体長約40mm)では灰暗緑色、暗褐色など変異に富む。

防除のポイント

- ◆ 若齢幼虫の防除に重点を置く。卵塊や分散前の幼虫は、葉ごと取り除く。
- ◆ 発生を認めたら、アファーム乳剤(キャバツ、ブロッコリー、ほうれんそうなど)、グレーシア乳剤(キャバツ、はくさい、いちごなど)等を散布する。

令和6年9月5日発出の防除情報「シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウに注意！」もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2409_r6bojo03_shiroichihasumon_soshin.pdf

＜病害虫防除グループホームページに関するお知らせ＞

これまで本メールサービス等を掲載していた当グループホームページ <https://www.jpnpn.ne.jp/osaka/> は、令和6年10月末で更新を終了し、以後は以下の新ホームページへ情報を掲載します。

旧ページは令和7年3月末にサーバ停止により接続できなくなりますので、ブックマーク等の更新をお願いいたします。

新ホームページ「病害虫防除に関すること」

アドレス：<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

次回の情報は12月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！(12月)②

ねぎ:ネギアザミウマ(えそ条斑病)



ネギアザミウマ

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉がしおれて枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、プレオフロアブル、アグリメック(アザミウマ類)等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。



えそ条斑病の葉の病斑

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

果樹

みかん(越冬対策)

ミカンハダニ



被害葉

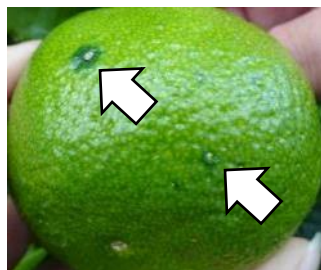
特徴

- ◆ 果実や葉に寄生し、吸汁する。吸われた部分は、色が抜けて白くなる。
- ◆ 日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。
- ◆ 冬期は低温のため、増殖は抑えられるが生息はしている。春になり暖かくなると、増殖を開始する。

防除のポイント

- ◆ 収穫後の園では、12月中～下旬にマシン油乳剤(機械油乳剤95(かんきつ、ハダニ類の越冬卵)、ハーベストオイル(かんきつ)等)による防除を行う。
※樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で薬害(落葉助長)が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤(ハーベストオイル等)を散布する。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシ被害



フジコナカイガラムシ被害※

特徴

- ◆ 葉や枝、果実に寄生し、多発した場合は、樹勢が落ち、果実の商品価値を低下させる。

防除のポイント

- ◆ 収穫後の園では、12月中～下旬にマシン油乳剤(機械油乳剤95(かんきつ、ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ)、ハーベストオイル(かんきつ)等)による防除を行う。
※樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で薬害(落葉助長)が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤(ハーベストオイル等)を散布する。
- ◆ 樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。

もも(越冬対策)

カイガラムシ類



ウメシロカイガラムシ*

特徴

- ◆ ももでは、ウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシ(白色～灰白色)、ナシマルカイガラムシ(黒色～茶褐色)等が加害する。
- ◆ ウメシロカイガラムシやクワシロカイガラムシは成虫が、ナシマルカイガラムシは幼虫が、枝に寄生して越冬する。

防除のポイント

- ◆ マシン油乳剤(機械油乳剤95(落葉果樹(除ぶどう))、トモノールS等)による防除が遅くなると薬害の危険性があるので、12月中～下旬までに行なう。
- ◆ マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。

野菜

野菜類全般

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜(キャベツ等)、ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 若齢幼虫の防除に重点を置く。卵塊や分散前の幼虫は、葉ごと取り除く。
- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、早期発見に努める。
- ◆ 発生を認めたら、コテツフロアブル(キャベツ、ブロッコリー、ねぎなど)、プレオフロアブル(キャベツ、ブロッコリー、ねぎなど)等を散布する。

※参考:カラー技術資料「シロイチモジヨトウ生態と防除対策」
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/shiroichi_osaka.pdf

令和6年9月26日発出の病害虫発生予察注意報第6号「シロイチモジヨトウ」についてもご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2409_chuuihou06_shiroichimojiyotou_soshin.pdf

オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソフフロアブル5(キャベツ、なす、トマト、ミニトマトなど)、ディアナSC(キャベツ、なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。

令和6年5月24日発出の病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2405_chuuihou02-ootabakoga.pdf



卵

きゅうり(収穫後防除)

アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ:黄化えそ病)



ミナミキイロアザミウマと被害葉※



黄化えそ病被害葉※

特徴

- ◆ アザミウマの発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病※1の原因ウイルスを媒介する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。

※1:メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病。
きゅうり、メロン、すいか、しろりり、にがうり等に感染する。

防除のポイント

- ◆ 黄化えそ病は、MYSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆ 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設内を除草したのち、2週間以上密閉して、ミナミキイロアザミウマを餓死させる。

コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)

タバココナジラミと
キュウリ退緑黄化病被害葉※

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病※1のウイルスを媒介する。
- ◆ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。

※1:ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病。きゅうり、メロン、すいか等に感染する。

防除のポイント

- ◆ 退緑黄化病は、CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆ 発病株は取り除き、完全に枯死させてから適切に処分する。
- ◆ 栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設内を除草したのち、2週間以上密閉して、タバココナジラミを餓死させる。

令和6年8月29日発出の病害虫発生予察注意報第5号「コナジラミ類」
についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2408_chuuihou05_konajiramirui_soshin.pdf

キュウリ黄化えそ病とキュウリ退緑黄化病について

- ◆ 近年多発しているキュウリ黄化えそ病とキュウリ退緑黄化病は、症状で見分けることは困難である。
- ◆ 原因ウイルスは一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミを施設外へ拡散させないため、栽培終了後は必ず施設を閉め切る。なお、両害虫を餓死させるために、施設内の餌を残さないよう閉め切り前の除草を徹底する。
- ◆ 栽培終了後から残さ撤去までにコナジラミ類やアザミウマ類のまん延防止を目的としてキルパーを使用する。ただし、この場合、処理後に作付けできる作物の種類は限られるので登録をよく確認する。

あぶらな科野菜（キャベツ、ブロッコリー、こまつな等）

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

特徴

- ◆ 定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ 発病した株は、根ごとほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 収穫作業は未発生ほ場より行い、汚染ほ場を拡大させない。
- ◆ 汚染ほ場の作業後は、機器や履き物等を洗浄する。

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

菌核病



キャベツでの発生

特徴

- ◆ 暖冬・多雨時に発生が多い。
- ◆ ネズミの糞のような黒い菌核が土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、見つけ次第菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ キャベツやブロッコリーで発生が予想される場合は、ベンレート水和剤、セイビアーフロアブル20等を散布する。
- ◆ 多発ほ場では、菌核病の発生しやすいあぶらな科野菜やレタスなどを連作しない。
- ◆ 水稲との輪作は防除効果がある。

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025



2025農林業センサスキャンペーンサイト(農林水産省)

(<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2025cp/cp99.html>)

